

【 専門分野 】 地域・在宅看護論 10単位 315時間

I. 科目構築の考え方

地域・在宅看護論は、地域で生活するあらゆる健康レベルの人びととその家族や地域を理解し、地域における多様な場と看護の役割・機能を学ぶ。地域・在宅看護論では、看護の対象を個人、集団、地域に拡大し、ライフサイクル全期をとおしてあらゆる健康のレベルにある人びとの健康と生活の支え合いについて自助・互助・共助・公助の視点から地域を理解する。これらの概念や社会資源（システム）を学ぶ内容として地域・在宅看護概論を設定する。また、地域を嬉野市とその近隣に絞り込み、地域の特徴や資源を活用し地域で生活する人びとの健康問題や地域包括ケアシステムによる支え合いと地域住民の健康ニーズや多様な生活に応じた看護の提供について学ぶ。また、地域・在宅における社会資源は、保健・医療・福祉の連携・協働によって提供されるため、関連職種や関連法規を理解する内容として地域・在宅看護方法論を設定する。

地域で生活する人びとと暮らし、地域コミュニティ活動、健康支援活動（健康づくり）を理解するために、地域・在宅看護論実習Ⅰを1年次の実習科目として設定する。次に、2年次の科目として地域で生活する人びとの健康の保持・増進、自立支援、疾病の予防に関わる看護師の役割を学ぶために地域・在宅看護論実習Ⅱを設定する。また、健康問題を持つ在宅療養者とその家族を対象とする看護、地域包括ケアの実践を学ぶために地域・在宅看護論実習Ⅲを設定する。

II. 目的・目標

1. 目的：地域で生活するあらゆる健康レベルの人びととその家族を理解し、地域における多様な場での看護の役割や機能を理解する。
2. 目標
 - 1) 地域・在宅看護が必要になる背景および地域・在宅看護の目的や特徴を理解できる
 - 2) 地域の特徴、地域で生活する人びとの暮らしおよび健康問題が理解できる
 - 3) 地域で生活する人々の健康問題を理解し、健康支援活動・介護予防活動の特徴を理解できる
 - 4) あらゆる健康レベルの地域・在宅療養者の看護の実践を理解できる
 - 5) 地域・在宅看護に必要な看護技術を身につけることができる
 - 6) 地域・在宅療養を支える制度および他職種・多職種連携の意義とその方法を理解できる
 - 7) 地域包括ケアシステムにおける看護の役割と社会資源の活用について理解できる
 - 8) 地域・在宅看護を取り巻く社会や対象の状況や看護の特徴から、2050年の地域・在宅療養の展望と課題を自分の言葉で述べることができる

Ⅲ. 科目の構成

専門分野	科目名（時間）	単元（時間）
地域・在宅看護論 11 単位 360 時間	地域・在宅看護概論 （1 単位 15 時間）	地域・在宅看護の対象（2）
		地域・在宅看護が必要な社会背景と在宅看護の変遷（2）
		地域・在宅看護の定義・目的（2）
		地域・在宅看護における看護師の役割と地域包括ケアシステム（2）
		地域・在宅療養を支える制度（2）
		多様な場における看護の実際（2）
		地域・在宅看護における倫理的課題（2）
	地域・在宅看護方法論 Ⅰ（1 単位 15 時間）	地域の特性（2）
		地域で生活する人びとと暮らしの理解（4）
		生活の場と健康支援（2）
		嬉野市の健康づくりの目標と取り組み（4）
		嬉野市の特徴と防災（2）
	地域・在宅看護方法論 Ⅱ（1 単位 30 時間）	地域における暮らしを支える看護（4）
		地域・在宅看護を支える看護技術（26）
	地域・在宅看護方法論 Ⅲ（2 単位 45 時間）	地域・在宅看護の展開（22）
		地域・在宅看護に必要な看護技術（2）
		健康レベルに応じた介入と療養の場の移行（12）
		地域・在宅療養が必要な神経難病患者の看護（2）
		地域・在宅療養が必要な筋ジストロフィー患者の看護（2）
		地域・在宅療養の展望と課題（4）
	地域・在宅看護方法論 Ⅳ（1 単位 30 時間）	地域・在宅療養を支える制度（12）
		地域・在宅療養を支える他職種・多職種連携（8）
		訪問看護制度と訪問看護ステーションのサービスのしくみ（2）
		看護小規模多機能型居宅介護のサービスのしくみ（2）
		地域包括支援センターの役割（2）
		地域・在宅看護における法制度の理解と活用（2）
		介護者の理解と家族支援（2）
	地域・在宅看護論実習 Ⅰ（1 単位 45 時間）	地域や地域で生活する人びとと暮らしの理解（45）
	地域・在宅看護論実習 Ⅱ（2 単位 90 時間）	地域で生活する人びとの健康の保持・増進、自立支援、疾病予防に関わる看護（90）

	地域・在宅看護論実習 Ⅲ（1 単位 45 時間）	健康問題を持つ地域・在宅療養者の看護（90）
--	-----------------------------	------------------------

IV. 授業の概要（シラバス）

分野	専門分野	科目名 単位（時間）	地域・在宅看護概論 1 単位 (15 時間)	授業 形態	講義	開講 時期	1 年 前期
講師名 所 属		岩谷 望美 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験:看護師 9 年					
授業概要		地域・在宅看護論では、地域で生活する人びとの暮らしの理解を深め、地域のあらゆる場で生活するあらゆる人びと、あらゆる健康レベルにある個人・家族、集団、地域を対象にした看護を実践する。地域で生活している人々は、様々な社会資源に支えられている。2025 年問題、2040 年問題の背景にある人口構造の変化、社会のニーズの変化を的確に捉え、地域・在宅看護を必要とする社会背景とそれを支える諸制度についての理解を深める。地域・在宅看護の目的とその必要性の理解し、地域・在宅における健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復、または人生の完成としての能き死を支える看護の基盤を学ぶ。					
科目目標		1. 地域および地域で生活する人びとの理解ができる 2. 地域・在宅看護が必要になる背景を理解できる 3. 地域・在宅看護の目的や特徴を理解できる 4. 地域・在宅療養を継続するための地域包括ケアシステムと在宅療移行支援を理解できる					
テキスト		1. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ 地域・在宅看護の展開 医学書院					
参考文献		1. 国民衛生の動向					
評価方法		詳細は別紙「評価計画」参照 ※講義の欠席がある場合は課題を課す					
		筆記試験	○	レポート		技術試験	
		口頭試問		授業態度	○	出席状況	○
授業計画							
回数		講義内容			教授・学習方法		担当講師
1		1. 地域・在宅看護の対象 1) 地域とは 2) 地域で生活する人びと（ライフサイクル） 3) 地域で生活する人びとの健康レベル 4) 多様な生活の場			講義		岩谷 望美
2		2. 地域・在宅看護が必要となる社会背景と在宅看護の変遷 1) 地域・在宅看護が必要となる社会背景と根拠 (1) 人口構成の変化 (2) 国民の健康観・価値観					

	(3)在宅医療・介護の動向と社会保障費用の現状 2)在宅看護の変遷 (1)在宅医療・在宅看護のしくみ (2)在宅看護の変遷		
3	3. 地域・在宅看護の定義・目的 1)地域・在宅看護のめざすもの (1)地域・在宅看護が提供される場 (2)QOLの維持向上	講義	岩谷 望美
4	4. 地域・在宅看護における看護師の役割と地域包括ケアシステム 1)地域包括ケアシステムとは 2)地域包括ケアシステムにおける他職種・多職種連携 3)地域包括ケアシステムにおける在宅移行支援 4)パートナーシップ		
5	5. 多様な場における看護の実際 1)家庭で行う健康の保持増進 2)地域の人びとが支え合うコミュニティ活動 3)通院治療を必要とする人びとへの理解と支援 4)地域で療養生活を送る人びとへの理解と支援		
6	6. 地域・在宅療養を支える制度 1)介護保険制度 2)訪問看護制度 3)高齢者に関する法制度 4)障害者・難病に関する法制度		
7	7. 地域・在宅看護における倫理的課題 1)在宅療養者・家族の権利保障 (1)自己決定権 (2)情報管理 (3)成年後見制度 (4)虐待の防止 2)療養者を支える家族に及ぼす影響		
8	終講試験	試験（評価）	単位認定者 岩谷 望美

分野	専門分野	科目名 単位(時間)	地域・在宅看護方法論Ⅰ 1 単位(15 時間)		授業 形態	講義 演習	開講 時期	1 年 前期
講師名 所 属		岩谷 望美 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験:看護師 9 年						
授業概要		地域の特徴、地域で生活する人びとの暮らしを理解するために、嬉野市内等で生活する人びとにインタビューを行い考察する。地域で生活する人びとの健康問題を理解し、地域でどのような健康施策や事業が行われているか学びを深める。地域包括ケアシステムを理解し、地域で生活する人びとがあらゆる社会資源に支えられ生活していることを理解する。また、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割と社会資源の活用について理解を深める。近年、自然災害が多発しており地域住民の安全確保やリスクマネジメントが重要である。嬉野市の地域特性や地域防災について理解を深める。						
科目目標		1. 地域の特徴、地域で生活する人々の暮らしが理解できる 2. 地域で生活する人々の健康課題が理解できる 3. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割および社会資源について理解できる 4. 嬉野市の地域特性と防災活動の実際を理解できる						
テキスト		1. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ 地域・在宅看護の展開 医学書院						
参考文献		必要に応じて授業中に紹介する						
評価方法		詳細は別紙「評価計画」参照 ※講義の欠席がある場合は課題を課す						
		筆記試験	○	レポート	○	技術試験		
		口頭試問		授業態度	○	出席状況	○	
授業計画								
回数		講義内容			教授・学習方法		担当講師	
1		1. 地域の特性 1) 地域の多様性 2) 嬉野市の特徴 3) 嬉野市の人口構造 ・ 人口の推移 ・ 年代別人口 4) 嬉野市の地域の特徴 ・ 地形的特徴 ・ 産業 ・ 文化 ・ 歴史			講義		岩谷 望美	
2		2. 生活の場と健康支援						

	1)生活（暮らし）とは何か 2)生活の場と健康支援の実際 ・ 学校 ・ 職場 ・ 病院（施設） ・ 家庭 ・ 地域（コミュニティ）		
3	3. 地域で生活する人びとと暮らしの理解 1) 地域（嬉野市）に出向き、生活する人びとにインタビューをおこない、地域の特徴や暮らしの様子を理解する。	講義・演習 （フィールドワーク）	岩谷 望美
4	3. 地域で生活する人びとと暮らしの理解 2) 出身地の地域の特徴や暮らしの様子を理解する。 演習課題：嬉野市および出身地の地域の特徴と生活する人びとの暮らし	講義・演習	
5・6	4. 嬉野市の健康づくりの目標と取り組み 1) 市民の健康問題把握 2) 市民の健康ニーズの抽出 3) 健康支援活動（健康づくり） 4) 嬉野市の健康に関する地域の特徴から健康増進レシピの企画		
7	5. 嬉野市の特徴と防災 1) 嬉野市の人口構造と地域の特徴からみる防災の特徴 2) 地域防災の実際 3) ハザードマップの理解		
8	終講試験	試験（評価）	

分野	専門分野	科目名 単位（時間）	地域・在宅看護方法論Ⅱ 1 単位（30 時間）	授業 形態	講義 演習	開講 時期	2 年 前期												
講師名 所 属		山口 繁気 訪問看護ステーション一葉 看護師（管理者） 元田 三紀 訪問看護ステーション ease 看護師（管理者） 池ヶ谷 知美 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験:看護師 19 年																	
授業概要		地域・在宅看護が提供する「暮らしを支える看護」とは何かを考え、地域で生活する人々の健康支援活動・介護予防活動を理解する。地域包括ケアシステムにより暮らしを充実させるための健康の保持・増進、疾病の予防、早期発見・早期治療の取り組みの実際を学ぶ。また、地域・在宅看護における援助の方法や工夫点を理解し地域・在宅療養者が住み慣れた場所で安心して安全に療養生活を送ることができる看護実践を学ぶ。																	
科目目標		1. 地域で生活する人々の健康課題を理解し、健康支援活動・介護予防活動の特徴を理解する 2. 地域・在宅看護における援助の方法について理解できる																	
テキスト		1. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ 地域・在宅看護の展開 医学書院																	
参考文献		必要に応じて授業中に紹介する																	
評価方法		詳細は別紙「評価計画」参照 <table><tr><td>筆記試験</td><td>○</td><td>レポート</td><td></td><td>技術試験</td><td></td></tr><tr><td>口頭試問</td><td></td><td>授業態度</td><td>○</td><td>出席状況</td><td></td></tr></table>						筆記試験	○	レポート		技術試験		口頭試問		授業態度	○	出席状況	
筆記試験	○	レポート		技術試験															
口頭試問		授業態度	○	出席状況															
授業計画																			
回数		講義内容		教授・学習方法		担当講師													
1		1. 地域における暮らしを支える看護 1) 暮らしを支える看護とは (1) 暮らしの環境を整える看護 (2) 家族を支える看護 (3) ライフステージに応じた看護		講義		池ヶ谷 知美													
2		1. 地域における暮らしを支える看護 1) 健康の保持・増進、疾病の予防 (1) 健康な地域づくり (2) 生活習慣病の予防 2) 疾病の早期発見・早期治療 (1) がん検診 3) 生活機能維持・向上、生活機能の低下早期発見・早期対応																	
3		2. 訪問看護利用までの流れ 1) 介護保険を使った訪問看護利用までの流																	

	れ 2) 医療保険を使った訪問看護利用までの流れ 3) 入院治療から在宅療養へ移行する場合の訪問看護利用までの流れ 4) 主治医による訪問看護指示書の発行		
4・5	3. 地域・在宅療養を支える看護技術 1) 初回訪問 (1) 訪問のための事前確認事項 (2) 訪問のための契約書 (3) 訪問時のマナーと留意点 2) 初回訪問時における訪問看護師の役割 (1) 初回訪問時の状態確認 ①バイタルサイン測定 ②フィジカルアセスメント (2) 療養者・介護者とのコミュニケーション (3) 感染管理	演習	池ヶ谷 知美
6～10	3. 地域・在宅療養を支える看護技術 3) 在宅看護技術の応用 (1) 食生活・摂食嚥下 (2) 排泄 (3) 清潔 (4) 移動・移乗 (5) 服薬		
11・12	3. 地域・在宅療養を支える看護技術 4) 日常生活援助や療養管理指導・教育の実際 (1) 入浴介助 (2) 排泄介助 (3) リハビリテーション (4) 服薬管理		
13・14	3. 地域・在宅療養を支える看護技術 3) 医療管理を必要とする療養者の看護 (1) 胃瘻・経管栄養法 (2) 在宅中心静脈栄養法 (3) 人工呼吸器管理 (4) 在宅酸素療法 (5) 疼痛管理・緩和ケア	講義	山口 繁気
15	3. 地域・在宅療養を支える看護技術 4) 災害時のリスク管理	講義	元田 三紀

	終講試験	試験（評価）	単位認定者 池ヶ谷 知美
--	------	--------	-----------------

分野	専門分野	科目名 単位（時間）	地域・在宅看護方法論Ⅲ 2 単位（45 時間）	授業 形態	講義 演習	開講 時期	2 年 後期
講師名 所 属	山口 善子	合同会社	A-PLUS				
	野田 友一	肥前精神医療センター	看護師				
	川畑 仁美	長崎川棚医療センター	看護師				
	柏原 史弥	長崎川棚医療センター	看護師				
	岩谷 望美	嬉野医療センター附属看護学校	教員	実務経験:看護師 9 年			
	岩本 聡	嬉野医療センター附属看護学校	教員	実務経験:看護師 12 年			
	劔持 葉子	嬉野医療センター附属看護学校	教員	実務経験:看護師 14 年			
授業概要	地域・在宅療養の看護の特徴と一連の流れの理解し、あらゆる健康レベルの地域・在宅療養者の看護の実際の理解を深める。地域・在宅療養者の目標を考慮し、地域・在宅看護に必要な日常生活援助や療養管理指導・教育の方法を理解する。地域・在宅看護を取り巻く社会や対象の状況や看護の特徴、社会のニーズから、2050 年の地域・在宅療養の展望と課題を自分の言葉で述べる。						
科目目標	1. 地域・在宅療養の看護の特徴と一連の流れを理解できる 2. あらゆる健康レベルの地域・在宅療養者の看護の実際の理解ができる 3. 地域・在宅看護に必要な看護技術を身につけることができる 4. 地域・在宅看護を取り巻く社会や対象の状況や看護の特徴から、2050 年の地域・在宅療養の展望と課題を自分の言葉で述べることができる						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ 地域・在宅看護の展開 医学書院						
参考文献	必要に応じて授業中に紹介する 国民衛生の動向						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記試験	○	レポート	○	技術試験		
	口頭試問		授業態度		出席状況		
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師	
1	1. 地域・在宅看護の特徴 1) 地域・在宅看護における看護過程 (1) 看護過程とその意義 (2) 地域・在宅看護における看護過程の基本 ・多様性 ・生活環境や家族への視点 ・地域への視点 ・時間的な広がり ・ストレングスへの着目			講義		岩谷 望美	
2	2. 地域・在宅療養に必要な看護技術			講義・演習			

	1) ICT を活用した健康管理、指導・教育 (1) ICT 活用推進の背景 (2) スマートフォンアプリ、ウェアラブル計測機器による健康管理 (3) ビデオ通話システムにおける地域・在宅療養者の見守りシステム、テレナーシング (4) オンライン診療 ①医師との連携 (5) 施設間連携と医療機能情報提供制度（医療情報ネット） ①医療機能情報提供制度（医療情報ネット）とは ②ピカピカリンク、あじさいネット ③99 さがネット		
3	3. 健康レベルに応じた介入と療養の場の移行 1) 脳血管疾患療養者	講義	岩本 聡
4	3. 健康レベルに応じた介入と療養の場の移行 2) 認知症療養者	講義	山口 善子
5	3. 健康レベルに応じた介入と療養の場の移行 3) 終末期療養者		
6	3. 健康レベルに応じた介入と療養の場の移行 4) 子どもの療養者	講義	劔持 葉子
7	3. 健康レベルに応じた介入と療養の場の移行 6) 精神障害者	講義	野田 友一
8・9	3. 健康レベルに応じた介入と療養の場の移行 5) 難病の療養者 4. 地域・在宅療養が必要な神経難病患者の看護 1) 神経難病患者の特徴 2) 神経難病患者の看護の実際 3) 地域・在宅療養に向けての支援	講義	院外講師
10	5. 地域・在宅療養が必要な筋ジストロフィー患者の看護 1) 筋ジストロフィー患者の特徴 2) 筋ジストロフィー患者の看護の実際 3) 地域・在宅療養に向けての支援	講義	院外講師
11	6. 地域・在宅看護の展開 1) 訪問看護で使用する記録	講義	岩谷 望美
12	6. 地域・在宅看護の展開		

	2) 在宅における看護過程の特徴 (1) 地域・在宅看護過程における情報収集とアセスメント		
13～20	6. 地域・在宅看護の展開 3) 慢性閉塞性肺疾患（COPD）の療養者の在宅移行・在宅療養初期の支援 (1) 事例展開 ・情報収集とアセスメント ・看護課題（看護問題）の明確化 ・看護目標設定 ・計画立案 ・実施 ・評価	演習	岩谷 望美
21・22	7. 地域・在宅看護のマネジメント 1) 地域・在宅看護の展望と課題	講義・演習	
23	終講試験	試験（評価）	単位認定者 岩谷 望美

分野	専門分野	科目名 単位（時間）	地域・在宅看護方法論Ⅳ 1 単位（30 時間）	授業 形態	講義	開講 時期	2 年 前期
講師名 所 属		糸山 尚美 嬉野医療センター MSW 福田 隆恵 嬉野医療センター 地域医療連携係長 山口 繁気 訪問看護ステーション一叶 看護師（管理者） 元田 三紀 訪問看護ステーション ease 看護師（管理者） 池ヶ谷 知美 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験:看護師 19 年					
授業概要		地域・在宅療養を支える制度および訪問看護ステーションをはじめとする事業所等のしくみを理解し訪問看護についての理解を深める。地域・在宅療養が様々な職種から支えられており、連携・協働されていること、またその意義と方法の理解を深める。					
科目目標		1. 地域・在宅療養を支える制度を理解できる 2. 訪問看護ステーションのしくみを理解できる 3. 地域・在宅療養を支える多職種連携の意義とその方法を理解できる					
テキスト		1. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ 地域・在宅看護の展開 医学書院					
参考文献		医療福祉総合ガイドブック 医学書院					
評価方法		詳細は別紙「評価計画」参照					
		筆記試験	○	レポート		技術試験	
		口頭試問		授業態度		出席状況	
授業計画							
回数		講義内容			教授・学習方法		担当講師
1		1. 地域・在宅療養を支える制度 1) 地域包括ケアシステム 2) 社会資源（自助・互助・共助・公助）の活用 3) 医療保険と介護保険			講義		糸山 尚美
2・3		1. 地域・在宅療養を支える制度 4) 介護保険制度 (1) 介護保険申請 (2) 介護サービス利用までの流れ (3) 介護保険法と関係職種の機能 ① 介護支援専門員 (4) ケアマネジメント・ケースマネジメント			講義 (事例)		
4		1. 地域・在宅療養を支える制度 5) 障害者を支える制度 (1) 身体障害者手帳			講義		

	(2) 障害者総合支援法		
5	1. 地域・在宅療養を支える制度 6) 難病療養者を支える制度 (1) 難病の患者に対する医療費等に関する法律（難病法）や難病対策要綱 (2) 医療費の公費補助	講義	糸山 尚美
6	1. 地域・在宅療養を支える制度 7) 子どもの在宅療養を支える制度 (1) 公費負担医療制度		
7	2. 地域・在宅療養を支える他職種・多職種連携 1) 居宅介護支援事業所の役割と機能 2) 介護支援専門員の役割と機能	講義	池ヶ谷 知美
8	2. 地域・在宅療養を支える他職種・多職種連携 3) 療養の場移行に伴う看護と連携 (1) 外来・地域連携部門との看看連携 (2) 入院支援	講義	福田 隆恵
9	2. 地域・在宅療養を支える他職種・多職種連携 3) 療養の場移行に伴う看護と連携 (3) 地域連携 ① 多職種との連携・協議 ② 地域医療連携パス		
10・11	2. 地域・在宅療養を支える他職種・多職種連携 4) 地域・在宅看護における連携の特徴 (1) チームケア (2) 地域包括ケア (3) 医師との連携 (4) 介護保険の社会資源との連携	講義	山口 繁気
12・13	3. 訪問看護制度と訪問看護ステーションのサービスのしくみ 1) 訪問看護の利用者と保険制度 2) 訪問看護利用までの手順 4. 看護小規模多機能型居宅介護のサービスのしくみ 1) 小規模多機能型居宅介護のサービスの特徴 2) 小規模多機能型居宅介護の対象 5. 地域包括支援センターの役割 1) 介護予防ケアマネジメント 2) 包括的・継続的ケアマネジメント 3) 総合相談	講義	元田 三紀

	4) 権利擁護		
14	6. 地域・在宅看護の法制度の理解と活用 1) 地域・在宅看護における法制度活用の統計的背景 2) 地域・在宅看護における法制度の活用の実際	講義	池ヶ谷 知美
15	7. 介護者の理解と家族支援 1) 要介護者を介護する家族の状況 2) 在宅看護における家族看護のポイント 3) 家族介護者交流事業		
	終講試験	試験（評価）	単位認定者 池ヶ谷 知美